

## 事例紹介について

事例名： AR,MR を使った施設完成イメージの描画

企業名： 国際航業株式会社

<p>概要</p>	<p>弊社は、これまで空港案内や啓発用ハザードマップ、観光案内等の情報提供において、webGISと連携した AR や VR のシステムを提供してきた。これら技術を応用して、CIM 等で活用可能な AR,VR,MR を使った合意形成ツールの提供を行っている。</p> 
<p>基本的な仕組み</p>	<p>CIM もしくは、航空測量等で撮影したデータにより整備した 3 次元モデルを作成する。これらデータを一部加工して、fbx 等のデータ交換フォーマットを作成し、スマートフォンや専用のヘッドギアにデータをセットすることで、3 次元モデルを立体的に表示する。</p>
<p>活用イメージ</p>	<p>■ VR スマートフォンに VR ソフトウェアをインストールし、3,000 円程度のヘッドギアにセットすることで、手軽に VR を体験できる。スマートフォンのセンサを使いデータの中を自由に移動することも可能。</p>  <p>VR (Virtual Reality)</p>  <p>■ AR, MR 設計平面図（一般図）等では、なかなか伝わらない立体モデルをスマートフォンを通して、図面上に描画することで、具体的なイメージを提供する。</p>  <p>AR (Augmented Reality)</p>

### PR ポイント

- ・複雑で細かい要素で構成された 3 次元モデルにおいても、VR や AR で描画可能に変換
- ・赤外線レーザを搭載したスマートフォンや Microsoft HoloLens 等にも対応して、MR (Mixed Reality) にも対応可能
- ・地理情報を利用し現実空間に仮想空間を描画することで、徐々に浸水するような描画にも対応可能